

ペプチドの生体内安定化技術ならびに 薬物送達システムへの応用

① 共同研究・産学連携への意気込み



教授
大庭 誠

ペプチド創薬に注目が集まる中、生体内で分解されやすいペプチドの安定化技術を有しています。また、薬物送達システムのツールとして用いることができるペプチドシーズを有しています。

② 想定される連携先・移転先

ペプチドを研究ツールや医薬品へと応用することを考えている研究者・企業。
細胞膜透過性の低い薬物を細胞に導入したい研究者・企業。

キーワード

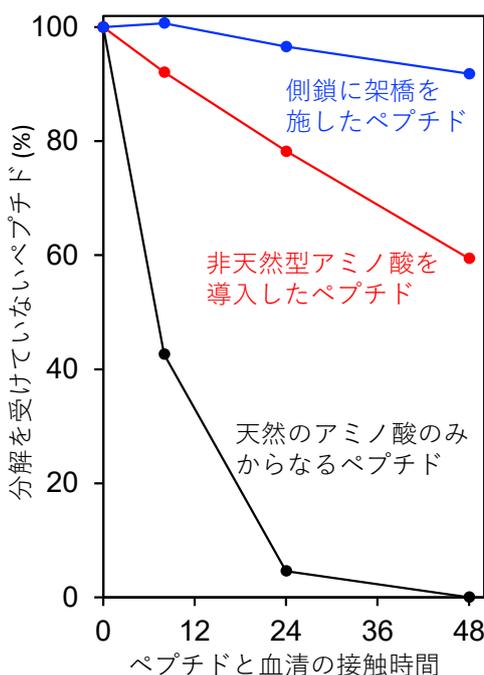
ペプチド、非天然型アミノ酸、薬物送達システム (DDS)

研究内容

ペプチド中に非天然型アミノ酸を導入し、さらにペプチド側鎖に架橋を施すことで酵素に対する分解耐性を獲得し、血清存在下でも安定に存在することができます。

ペプチドの生体内安定化技術はペプチドの細胞膜透過性向上にも寄与し、モデル薬物や核酸などの生体高分子を効率よく細胞内に送達することができます。また、機能の持続化にも貢献します。

血清に対する安定性評価



薬物送達システムとしての評価

